

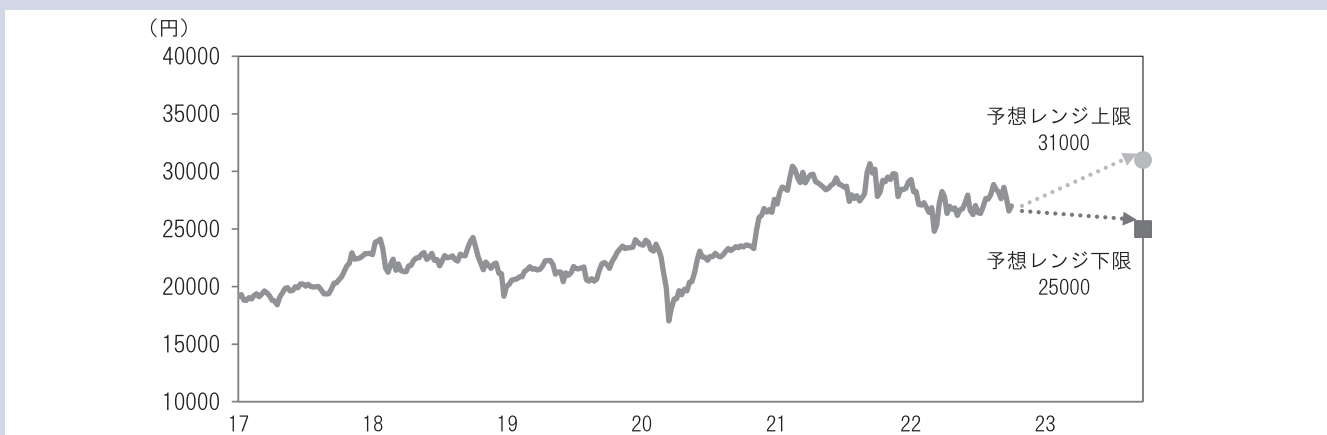
向こう1年間の市場見通し (10月11日時点)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は企業業績の拡大を背景に底堅い展開を予想する。ただし米国の金融引き締めが米景気後退懸念を通じて世界的株価下落を招く可能性には注意が必要。インフレ退治を最優先課題とするFRBは株式市場へ配慮する姿勢に乏しい。また日本の内需回復が遅れるリスクにも注意が必要。
ドル円	米長期金利上昇、それに伴う日米金利差拡大によって円安が進行する可能性は残存するものの、今後は米国の利上げ観測が安定する下でドルの先高観が薄れると予想する。政府は為替介入に踏み切ったが、それによって直ちに円高方向へ転換するとは考えにくい。
金利	日銀は長期金利の誘導目標を「0%程度」に据え置く公算が大きい。長期金利を抑制する仕組みを強化しており10年金利が0.25%を超える可能性は低い。短期金利は▲0.1%で不変の見込み。ただし、23年4月の黒田総裁の任期満了後、現在の金融政策が変化する可能性はある。

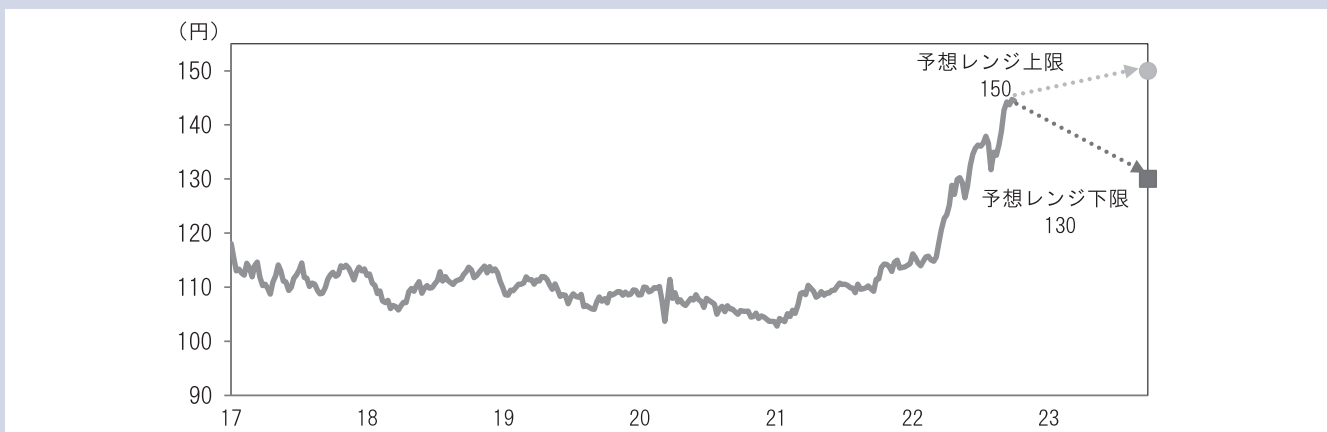
(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所) Refinitivより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所) Refinitivより第一生命経済研究所作成